

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

パブリックサービスR&C合同会社

②事業者情報

| | | | |
|--------|----------------------------------|-----------|--------------|
| 名称： | アスクむさしうらわ保育園 | 種別： | 保育所 |
| 代表者氏名： | 山岸 優子 | 定員(利用人数)： | 60 (63) 名 |
| 所在地： | 〒336 -0021 埼玉県さいたま市南区別所7-1-12 | Tel. | 048-872-8107 |

③評価実施期間

平成30年7月27日（契約日）～平成31年3月31日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○基本法令を大切に捉えて全体的な計画や指導計画を作成し、子どもの視点を大切にした保育を目指して実践を進めています

保育指針の改定に伴う新たな「全体的な計画」の編成にあたり、職員間で児童憲章を読み合わせ、児童憲章や児童権利に関する条約、保育所保育指針を基にした、地域性や子どもの家庭状況等を考慮した計画の検討と共通理解に取り組むとともに、年齢ごとの発達過程やねらいに沿って、年間・月間の指導計画や行事計画を立案して保育に臨んでいます。今年度は、0・1・2歳児の環境設定の見直しを行い、子どもが好きな玩具で遊ぶことができ、体を動かすスペースや靴下をはきやすいスペースができるように手作りの仕切りを設けたり、遊具の配置を工夫したりして、子どもたちが活動しやすく、また家庭環境に近づけるように配慮しました。また、職員からの子どもたちの創造性を高める取り組みの提案、例えば雨の日の外出案に対しても安全性や他案の検討などの試行を重ねたり、造形展に向けては各クラスが創意工夫しながら年間を通して絵本の読み聞かせや製作の準備を進めるなど、園長を中心に話し合い、実践しています。職員の発案や意見を尊重し、個々の経験値や保育観などの相違を超え、より良い保育を目指して協議する組織風土がみられます。

○長期目標である「地域の子育ての根拠地となる保育園」に向けて着実に取り組みを進展させており、目標の実現が期待できます

当園では、地域交流事業年間計画を作成し、月ごとの予定内容や目的を記載しています。園舎が郵便局の敷地内にあることから、郵便局との定期的な交流が続いており、園の行事には郵便局の関係者に参加してもらったり、子どもたちが郵便局で行うイベント等の催しに出掛けたりする相互交流を行っています。今年度は消防署の協力によるAED講習も合同で実施しました。近隣の系列園との交流も深めているほか、今年度も地域の協力農家の畑で大根掘りを行い、新たに月1回の園庭開放（育児相談）や高齢者のデイサービスへの訪問も計画的に実施しています。運動会では小学生が参加できる競技を増やしたり、次年度に向けて未就園児の競技も計画しています。当園の5年長期計画目標である「地域の子育ての根拠地となる保育園（地域に溶け込み、教育・遊びを通じた体験をさせ生活力をつける）」に向けて着実に取り組みを進展させており、今後もこれらを定着させるとともに、さらに地域の子育て家庭等への情報発信を充実させていくことで、目標の実現が期待できます。

◇特にコメントを要する点

○次の新たな中・長期計画の検討にあたっては、目指す園の姿や取り組みの段階・達成度合いを測る指標をより明確にできると良いと思われま

す
児童憲章や会社の運営理念・保育理念、園目標等を基に、開設から5年間（平成27年度～31年度）の長期計画目標「地域の子育ての根拠地となる保育園」を掲げ、中期計画として各年度の保育、子ども、保護者、地域に関する取り組みを設定しています。計画は、半期毎に反省・改善点も記載しており、職員の意見も踏まえて見直し、具体化を図る改訂も行っています。前園長から引き継いだ当計画に沿って取り組みを進めてきましたが、計画期間も次年度に終了を迎える中で、さらに次の3年～5年の目標・計画を検討することが期待されます。計画の見直し・検討にあたっては、計画の取り組み項目は当園の予算や課題を踏まえ、どのような姿を構想するのかのイメージや、年度ごとの取り組みの段階・達成度合いを測る指標もより明確にした上で、各項目に応じた実績や評価、課題をより具体的、定量的に明らかにできると良いと思われま

す
○保育活動や子どもの発達過程のプロセスに客観性・連動性を持たせた、伝わりやすい効果的な記録方法を追求することが期待されま

す
職員間の情報共有を深めるために、朝の申し送りや昼礼、夕礼、クラス会議、職員会議等を定期的実施し、昼礼ノートや議事録に残しています。日常の保育における活動や子どもの状態についても保育日誌や子どもの連絡帳に記録し、職員間の引継ぎや保護者への伝達のほか、指導計画の反省・評価等に役立てています。しかしながら、経過や結論が分かりにくかったり、計画と記録とのつながりが見えにくい状況も窺えます。各記録は共通の項目立てを意識して整理したり、事実に加えて配慮や働きかけについて明確にするなど、他の職員や外部の関係者にも伝わりやすい効果的な記録方法をさらに工夫できると良いと思われま

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

中長期計画目標「地域の子育ての根拠地となる保育園」に向かい取り組んできました。職員で話し合い年に数回見直しを行って目標達成に向けて進めることができました。今後、新たな中長期目標・計画も職員と共にどのような姿の園にしていくか話し合い、意見をまとめて作成したいと思いま

す。
保育活動は、乳児・幼児クラスそれぞれ会議をしながら職員全員で共有し、各クラスが創意工夫をしながら進めてきました。常に話し合いを設けて意見を出し合い、子どもの気持ちを大切に行って

きました。
今後も子どもに寄り添い、保護者と共有し、園だけではなく地域の家庭にも情報を発信していきたいと思いま

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり